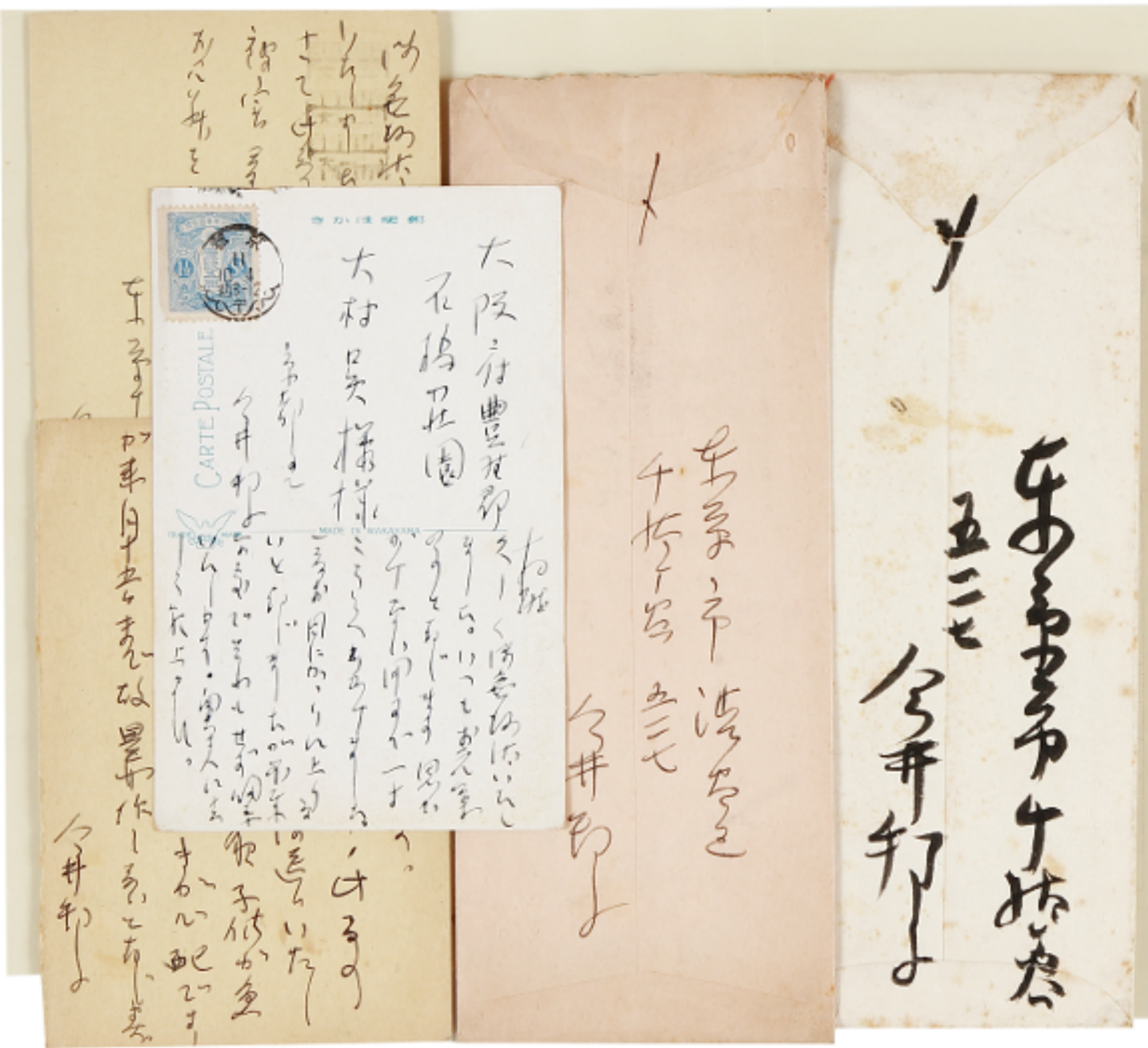
今井邦子

若駒

深蒼にすみ渡る空や元旦の日輪すでに高くのぼれり

元旦の巷をゆきて吾がききし駒のいななきこころよろしも

巷にて駒のいななき聞しかば信濃の春の若駒をしぞ思ふ

暁け方の寒さきびしく厨べに炭火のほのほにほひをあげぬ

年あけて朝井の辺にふみしむる雨の光も心すがしき